

基調講演 1

名：長 幸平

組織名：東海大学

肩書：情報技術センター所長、情報理工学部教授



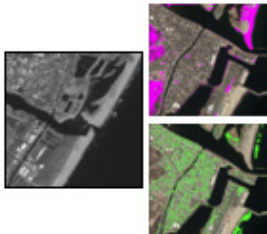
テーマ名：グローバル・モニタリングの取り組み

概要：

東海大学では、平成28年度に研究プロジェクト「災害・環境変動監視を目的としたグローバル・モニタリング・システムの構築による安全・安心な社会への貢献」が文部科学省私立大学研究ブランディング事業に選定を受け、“安全・安心に貢献する東海大学”として精力的に活動を続けてきました。グローバルとは、グローバルとローカルを結びつけた造語です。衛星を利用した"グローバル"な監視システムと SNS 等の"ローカル"な監視システムを統合し、災害監視に役立つグローバル・モニタリング・システムを構築することが本プロジェクトの目標です。本講演では、国内外の研究機関や近隣自治体と協力して実施してきたこれまでの取り組みと今後の展開についてご紹介します。



19号館屋上に設置された衛星受信アンテナ



津波被害域の自動推定



平塚市帰宅困難者対策訓練の様子



Twitterを用いた災害情報共有システム

自己紹介：

1981年千葉大学大学院修士課程修了，工学博士。

リモートセンシング技術センター研究員を経て、1992年に東海大学に奉職。現在、東海大学情報理工学部教授。情報技術センター所長、宇宙情報センター長、研究推進部長を兼務。

アジアリモートセンシング協会(AARS)事務総長。日本写真測量学会副会長。

衛星を使って地球環境を観測するリモートセンシングという技術の専門家。

共著に、画像解析ハンドブック、図解リモートセンシング、基礎からわかるリモートセンシング等。

2009年 Boon Indramabarya Medal 受賞。2012年 Samuel Gamble Award 受賞。

基調講演 2

氏名：坂下 哲也

所属：（一財）日本情報経済社会推進協会、常務理事

テーマ名：With コロナ時代の都市の変化とデータ利用

概要：新型コロナウイルスは社会の在り方を変える影響を与えています。

個人情報保護やプライバシー保護はもとより、データ利用についても考え方が変わりつつあります。スマートシティを事例に今後のデータ利用について解説します。

自己紹介：略歴もしくは現在のお仕事概要だけでもかまいません。

電子情報の保護と利用に関する基盤整備の企画・推進などに従事。

宇宙政策委員会専門委員、スーパーシティ／スマートシティの相互運用性の確保等に関する検討会委員、コロナウイルス対策本部テックチーム委員などに就任



基調講演 3

氏名：原田 典明

所属：旭化成 生産技術本部 デジタルイノベーションセンター
:センター長

テーマ名：旭化成における生産系 DX の取り組みについて

発表概要：旭化成は「世界の人びとの”いのち”と”くらし”に貢献する」理念のもと、サランラップに代表される消費材やマテリアル素材、ヘーベルハウスのような住宅事業、さらには医薬・医療領域まで時代のニーズに応え事業の多角化に挑戦してきた。近年は、多様性を尊重したグローバル化や研究開発、事業創出にも注力し、常に社会に新たな価値提供を続けている。

一方当社は、中期経営計画においてマーケティング、R&D、生産技術、知財戦略にデジタル技術の活用を掲げ、各事業の高度化をトップダウンで推進している。特に生産技術分野では AI、IoT などの技術を活用し「検査の自動化」「生産性向上」「設備の予兆診断」「現場作業の効率化」の4つの視点で取り組んできた。

今回、当社の生産系デジタルトランスフォーメーション（DX）の取組みと今後の課題についてご紹介したい。

自己紹介：略歴もしくは現在のお仕事概要だけでもかまいません。

1988年4月 旭化成工業株式会社（現旭化成株式会社）に入社

2018年10月から現職

旭化成の各工場における生産および保全に対しデジタル技術活用による現場革新を推進中。

